

「**小さき者への特権**」  
詩篇8篇（新共同訳）

## I 導入部

- ・ みなさん、おはようございます。このようにして本日もみなさんとともに礼拝を捧げることのできる恵みを心より感謝いたします。
- ・ 祈りをもって、このメッセージを始めさせていただきます。…

## II 本論部

### 一、地には困難がある

- ・ 本日読まれた詩篇8篇は、非常に美しい賛美です。2節（この詩も新改訳・口語訳の方は節がずれていますのでご注意ください）をご覧ください。「**主よ、わたしたちの主よ／あなたの御名は、いかに力強く／全地に満ちていることでしょう。**」
- ・ 私たちの神、主のお名前は、この地上のいたるところで、この世界の隅々で、力強くあがめられ、礼拝されている。
- ・ さらに、「**天に輝くあなたの威光をたたえます**」。地上だけではない。天においても、神さまの力強さ、素晴らしさが輝いていると歌う。
- ・ 詩篇8篇は、天と、地で輝く主の偉大さを歌うことから始まっていきます。
  
- ・ ここでふと思わされることがあります。この詩篇8篇を読んで疑問に思わないでしょうか。いかがでしょうか。私が、この詩に向き合うなかで、思わされたことがあります。
- ・ 本当に天と地で、主の偉大さは輝いているのだろうか？「そもそも論」ですが、天と地で、主の偉大さは本当に輝いているのでしょうか？
  
- ・ 例えば、教会にいるときに、聖書を読んだり、交わりを持ったりするなかで、私たちは「神さまって素晴らしい！」と思うことがあります。
- ・ あるいは、大自然の中にいるときに、キリスト教は、他の宗教のように自然を神とは見做しませんが、自然は神さまの素晴らしさを現していると信じていますので、美しい景色、特に夕焼けや、木々の美しさを見たとき、神さまの栄光が、素晴らしさが輝いていると感動することがあると思います。
- ・ 4節にもこのようにあります。

### 8:4 あなたの天を、あなたの指の業を／わたしは仰ぎます。月も、星も、あなたが配置なさったもの。

- ・ 8月というのは、小中高大学生にとってはキャンプシーズンです。先週は私が平日に奉仕しているKGKキリスト者学生会の夏キャンプがあったのですが、すべてオンライン、インターネット上で行いました。学生たちは非常にクリエイティブにプログラムを作っていて、オンラインでも十分恵まれ、楽しめたのですが、それでも欠けているのは自然ですね。
- ・ もちろん、オンラインであっても、素晴らしい時間を過ごせたことは感謝ですが、やはりいつもであれば、長野県の松原湖という大自然のなかで行っていますので、満点の星空を見上げて、神さまを賛美できたのに…という残念さはありました。

- ・ 私たちが教会のなかにいるとき、あるいは大自然のなかにいるときには、神さまの偉大さに気づきやすい。
- ・ しかし、いかがでしょうか。日常のなかで、天と地で輝く主の偉大さが果たしてどの程度見えているかと問われれば、そうでもないのではないかと思わされる。
- ・ ダビデは、2節で「**主よ、わたしたちの主よ／あなたの御名は、いかに力強く／全地に満ちていることでしょう**」と歌っていますが、ここには主のお名前は「**全地**」に満ちていると歌っています。「全ての地」です。あなたが生きている全ての場所で、あなたは主の偉大さを見ているでしょうか。
- ・ 例えば、電車に乗っているとき、コロナのために乗ることが減ってしまったという方もいらっしゃると思いますが、そこにも主の御名が力強く満ちているとはとても思えない。
- ・ 自宅にいるときはいかがでしょうか。学校や会社にいるとき、道端を歩いているとき、そこでも、主の御名が力強く働いていると信じておられるでしょうか。私自身、主の偉大さが見えなくなるということが起こる。
- ・ あるいは、困難に直面したとき、それでも主の御名が力強く働いていると信じるのは簡単なことではありません。みなさんそれぞれの人生のなかで、困難が起こったときはもちろんですが、ニュースを見ると、新型コロナウイルス感染症の患者数がまだまだ増えている。コロナの影響によって経済が大打撃を受けている。
- ・ 不安定な国際情勢、特に香港の状況には私自身、深い痛みを覚えています。この地上を見つめるとき、そこにある苦しみに、悪に、気づかされるとき、本当に「**全地**」に主の栄光が輝いているのだろうか。「**疑い**」を覚えることが、みなさんにもあるのではないのでしょうか。

## 二、**驚くべきことをなされる神がおられる**

- ・ ダビデは、天と地に輝く主の偉大さを賛美した後に、このようなことを歌っています。3節をご覧ください。
- ・ 「**幼子、乳飲み子の口によって。あなたは刃向かう者に向かって砦を築き／報復する敵を絶ち滅ぼされます。**」
- ・ 「**幼子**」、「**乳飲み子**」そして「**刃向かう者**」、「**報復する敵**」とあります。なんとも対照的な存在が描かれていますが、ここから分かるのは、ダビデは、何の困難もない場所でこの詩を歌ったわけではないということです。
- ・ 彼の目の前には敵がいた。困難があった。本当に「**全地**」に主の栄光が輝いているのだろうか。「**疑い**」を覚えざるを得ない状況のなかで、彼はそれでも主を賛美していたわけです。
- ・ そして、ちょっとややこしい話をしますが、ここで書かれている「**幼子、乳飲み子の口によって**」ということばは、その前にある2節の「**天に輝くあなたの威光をたたえます**」にかかるのか、つまり「**幼子、乳飲み子の口によって**」、「**天に輝くあなたの威光をたたえ**」ているのか。
- ・ あるいはその後の「**砦を築き**」、「**絶ち滅ぼす**」にかかるのか、つまり「**幼子、乳飲み子の口によって**」、「**砦を築き**」、「**絶ち滅ぼす**」のかというのは、実は両方取れるんですね。
- ・ もし、2節の「**たたえます**」の方にかかるすると、「**天に輝く**」主の素晴らしさは、小さな子ども、赤ちゃんの口によってたたえられている。小さな子ども、赤ちゃんの口が、主を賛美している。

- ・小さな子ども、赤ちゃんって本当にかわいいですね。「だあだあ」という声で、元気な笑い声で、あるいは泣き声だとそうは思えないことも多いと思いますが、小さな子どもたちは、赤ちゃんが神さまを賛美していると歌っているのだということになります。
- ・あるいは、もし後ろの文にかかるのであれば、「**幼子、乳飲み子の口によって**」、「**砦を築き**」、「**絶ち滅ぼす**」という意味となります。
- ・だとすれば、そのような小さな子どもの口には、赤ちゃんの口には、つまり彼らの賛美には、すごい力があるということです。「**砦**」すなわち敵から守られる。あるいは、敵を滅ぼす力があるということです。
- ・これは不思議な表現ですが、つまりは神さまという方は、小さな子どものような弱い存在を用いて、困難を退けることがあるのだという意味であると言われます。
- ・弱い者を通して力を現す。普通では想像できないような驚くべきことをなされるのが聖書が語る神であると語るのであります。
- ・弱い者、力のない者を通して力を現す神。これは私にとっても、大きな慰めですね。結婚してもうすぐ2ヶ月となりますが、あいかわらずとても幸せな日々を過ごしています。基本的にすごく幸せなのですが、よく起こるのは、自分の根深い癖というか、欠点が、相手を悲しませ、傷つけてしまうことです。自分としては、その弱さを知っていて、変わりたいと願っている。でも、なかなか変わらない。
- ・あるいは、目の前の状況を見て、すぐに恐れる。不安を覚える。時には恐れていることにすら気づかないほど恐れ感ってしまう。
- ・そのような私もまた、ダビデとともに歌いたいのです。「**幼子、乳飲み子の口によって。あなたは刃向かう者に向かって砦を築き／報復する敵を絶ち滅ぼされます。**」
- ・主は弱い者を用いて、その偉大なみわざをなしてくださる。だから、恐れなくて良い。主は驚くべきみわざを成し遂げてくださる。驚くべきことをなされる神がおられるのです。

### 三. 人間に与えられた特権

- ・ 続く4節で、ダビデは天を見上げ、歌います。おそらく羊飼いをしていた経験からだと思います、このように歌います。

**8:4 あなたの天を、あなたの指の業を／わたしは仰ぎます。月も、星も、あなたが配置なさったもの。**

- ・ 主は、天を造られ、月を、星を造られた方である。その上で、5節をご覧ください。

**8:5 そのあなたが御心に留めてくださるとは／人間は何ものなのでしょう。人の子は何ものなのでしょう／あなたが顧みてくださるとは。**

- ・ 驚くべきことをなされる主、天を月を星を造られた主は、人間を心に留めてくださる方である。あなたを心に留め、顧みてくださる方である。だから恐れなくても良い。
- ・ ダビデは感動して言うのです。「人間とは何ものなのでしょう」。こんなにも偉大な方が、自分のような小さな者に、大きな特権を与えてくださった。6節からをお読みします。

**8:6 神に僅かに劣るものとして人を造り／なお、栄光と威光を冠としていただきせ、**

8:7 御手によって造られたものをすべて治めるように／その足もとに置かれました。

8:8 羊も牛も、野の獣も

8:9 空の鳥、海の魚、海路を渡るものも。

- ・ 神は、人間を素晴らしい存在として造られた。もちろん、罪の影響を受けてしまっている。しかし、神さまに造られた素晴らしさは残っている。
- ・ だからこそ、今もなお「使命」が与えられている。それは7節にあります。それは「御手によって造られたものをすべて治める」という使命であり、特権です。
- ・ これは世界の始まりを描いた創世記にも書かれていることですが、「御手によって造られたものをすべて治める」という使命です。
  
- ・ 「治める」と聞くと、何か好き勝手やって良いというイメージがある方もいらっしゃるかもしれませんが、聖書における「治める」ということは、普通の意味と大きく異なります。例えば、イエスさまは、私たちクリスチャンを、ご自分のものとされている、治め、支配していると言われますが、それは何か強権的に抑圧的に支配するということではないんですね。むしろ、あの十字架で命を捨てるほどに愛し、また世話をすることが、イエスさまが私たちを支配される方法です。
- ・ ちなみに、新約聖書のヘブライの信徒への手紙2:6-8では、この詩篇8篇を本当の意味で実現したのは、イエスさまであるのだということが描かれています。イエスさまのように、この世界を正しく支配する。この美しい世界を愛し、世話をする、正しく管理する責任が、人間に託された。そのような特権が歌われています。
- ・ だからこそ、クリスチャンこそが環境保護に責任を持って取り組む必要があるのだと言われますし、日々の仕事や勉強、教会奉仕も、この世界を正しく「治める」ために、言い換えるならばこの世界を少しでも良い世界にしていくために、イエスさまのように犠牲を払い、愛をもって誠実に取り組む必要があるのだと言われます。
  
- ・ それは一見難しく見えます。「いやいやそんなことできませんよ」と言いたくなるかもしれません。
- ・ 環境保護はもちろん難しいことですし、私たちが日々取り組む仕事、それは家事も含めてですが、最近「逃げるは恥だが役に立つ」というドラマを見て、改めて家事も立派な仕事であること痛感しています。
- ・ 仕事や勉強、教会奉仕をするときに、それはこの世界を正しく「治める」ためであるなどとても思えない。もちろん私もそんなことを忘れてしまうこともたくさんあります。
  
- ・ 大切なことは、神さまの視点に立ち続けることです。神さまの視点に立って、この世界を見つめることです。
- ・ 自分の視点で見れば、私たちは失敗だらけだし、できることの小ささゆえに、「不全感」を覚えることばかりかもしれない。私自身も、自分のKKGキリスト者学生会の主事として働き、ユースパスターとしての働きを思うとき、それが、この世界をより良くしているなんて思えないことばかりです。失敗したなあと思うとき、なかなか成果が出ないと思うときもあります。
- ・ できることは小さいことかもしれない。日々の仕事、奉仕、伝道のことを考えると小さなことしかできないかもしれない。私たちの視点で見れば、それは無駄に見えるかもしれない。その意味で焦ってしまうことがある。

- ・でも、、、神さまの視点で見れば、この宇宙を、天地を造られた主、「**幼子、乳飲み子**」すら用いる方からすれば、あなたの日々の小さな働きは絶対に無駄にならない。
- ・この詩篇の8、9節には「**羊も牛も、野の獣も、空の鳥、海の魚、海路を渡るものも**」とあります。羊が先頭に来るのがさすが羊飼いだビデ…と思いますが、羊や牛はともかく、あとの動物なんて治められませんよね。でも、ダビデは信じたのです。自分の日々の働きが、全世界を治めることにつながっていると。どうつながっているかなんて分からない。でも、神さまが必ず私たちの日々の小さな働きを用いてくださる。
- ・主は、あなたを通して、この世界を変えたいと願っておられる。神を賛美しないように見える世界を変えたい。もっと、神さまを賛美する世界に変えたい。「**全地**」が主をあがめる世界に変えたいと願っている。そのプロジェクトに参加するという特権が、私たちには与えられているのです。

### **三. やがて完成する**

- ・最後に、10節をお読みして終わりにしたいと思います。

#### **8:10 主よ、わたしたちの主よ／あなたの御名は、いかに力強く／全地に満ちていることでしょう。**

- ・もちろんこの世界には、すでに神さまの御名が、力強く、満ちています。教会にも、自然のなかにも、あるいは大都市のなかで、この社会のなかで、神さまの力強さは現されている。
- ・しかし、終わりの日、イエスさまがこの地に戻って来られるとき、名実ともに、主の御名が全地に満ちる日が来る。その日、私たちが、本当にこの方の力強さを知るとき、神さまの世界を変えるプロジェクトは完成し、私たちは賛美を捧げるのです。

#### **8:10 主よ、わたしたちの主よ／あなたの御名は、いかに力強く／全地に満ちていることでしょう。**

- ・その時には、私たちが経験したあらゆる苦しみは終わりを迎える。そしてあの苦しみの意味が分かる。そして私たちは、イエス・キリストの十字架と復活のゆえに何も恐れる必要がなく、永遠の喜びのなかを生きる。
- ・そのときを待ち望みながら、今週もそれぞれの場所で、焦ることなく、どれほど小さくとも、誠実に主のわざに励んでいきたいのです。主にあっては、私たちの労苦は無駄にならないということを、天を見上げるとき、月や星を眺めるときに、思い出していただきたいのです。
- ・主はあなたを今日も招かれている。この地には困難があります。しかし、天を月を星を造られた神が、驚くべきみわざをなされる神が、弱い者を用いる神が、小さき者に特権を与えてくださる神が、あなたをも用いたいと願っておられる。あなたとともに、歩みたいと願っておられる。
- ・あなたは、その招きにどう応えるでしょうか。お祈りしましょう。